

おごせ 教育 Pick Up



越生小学校

1年生がトウモロコシの皮むきに挑戦しました。給食の調理員さんに手伝ってもらいながら、楽しくヒゲをむしり、皮をむきました。むいたトウモロコシは給食で食べ、いつも以上に美味しかったです。

梅園小学校

4・5・6年生が小学校裏の越辺川の水生生物調査に取り組みました。水のきれいなところに住むカワゲラ、トビケラ等の水生昆虫やサワガニ、カジカ、シマドジョウ等の魚類が多数確認できました



越生中学校

7月2日、IT関係の講師をお招きし、情報モラル教室（生徒・保護者対象）を開催しました。講師と生徒間でたくさん会話のキャッチボールをし、インターネットを使うときに気をつけることを学びました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子どもたちを写真で紹介するコーナーです。



お散歩たのしいな
幼稚園の周りには、さくらの山や大観山など自然がたくさんあります。幼稚園では、保育時間を使ってお散歩によくいきます。春は桜を見に、夏は虫を探しに、秋は木の実を拾いに、そして冬はそり滑りをしに行くなど、身近に四季を感じる事ができます。

ズームイン教育233

みどりの中の～

越生みどり幼稚園

梅ジュースづくり
幼稚園には年少組の玄関の前に梅の木が生えています。梅の実がなると「もう食べられるかな？」と興味津々の子どもたち。そこでみんなで梅ジュースを作ることになりました。自分たちで梅を収穫し、洗います。参観日にお家の方と一緒にジュースを飲み、みんな大満足でした。
ほかにもタケノコを掘ったり野菜を育てたりと、食に触れ収穫する喜びを味わっています。



遊具もおもちゃもないけれど、自分たちで遊びを考え自然に親しみながら楽しく遊んでいます。

越生浪漫

No.92

平城宮大極殿復原に
用いられた西川材



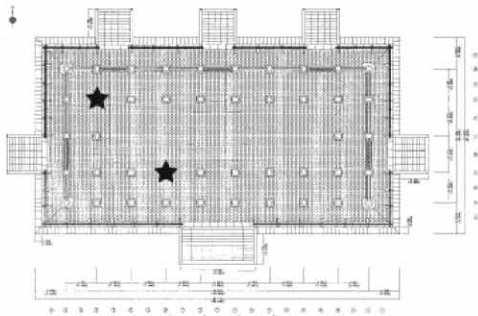
復原された平城宮大極殿正殿く文化庁報告書より

奈良の平城宮は、和銅3年(710)〜延暦3年(784)の間、日本の首都でした。平城宮遷都1300年記念事業の目玉として、平成13年から22年までの10年の歳月をかけ、180億円以上の巨費を投じて、平城宮大極殿の復原工事が実施されました。大極殿は、初重(第一層)の身舎(中心



高御座が据えられた初重身舎く文化庁報告書より

部)に高御座(天皇の玉座)が設えられ、国家儀礼が執り行われていた大内裏(平城宮)の最重要施設でした◆須田勉氏(元国士舘大学教授・考古学)から、この復原工事に西川材(後述)が使用されていることをご教示いただきました◆復原大極殿の初重柱に用いる檜材には、長さ7m以上、径60cm以上、年輪の密度が1cmに8〜12本という厳しい基準が求められました。日当たりの悪い北側で、時間をかけて生長するという環境下でなければ要件は満たせません。紀伊半島をはじめとする各地から良材が厳選されました◆『特別史跡平城宮跡第一次大極殿正殿復原工事の記録』(文



大極殿初重平面図(★が越生産材の柱)く文化庁報告書より

化庁・平成25年)には、初重柱44本の産出県別の内訳が、奈良21本、高知7本、埼玉6本、三重4本、愛知3本、和歌山2本、熊本1本と記されています。埼玉県産は、越生町、飯能市、大滝村から2本ずつです◆江戸時代から、名栗川・高麗川・越辺川流域、現在の越生町・飯能市・毛呂山町・日高市域産の木材は、江戸の「西の川から来る」との意味で「西川材」と呼ばれてきました。西川材は、度重なる大火による江戸の木材需要に応え、震災・戦後の東京の復興を支えました。地域の誇るブランド材として、世界遺産の古都での国家プロジェクトでも、立派に大役を務めました。

おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.53

イネの害虫 イチモンジセセリ

「チョウ目 セセリチョウ科」

8月下旬から9月、花壇に飛来するチョウの中で、ジェット機のように飛び交い、三角の翅をもつ茶色の小型種が見られます。白い一文字の斑紋を備えていたら、それはイチモンジセセリです。一方、高原の花でもこのイチモンジセセリの大量飛来に遭遇することがあります◆このチョウの幼虫は、イネの葉を食べて育ち、葉を筒状に丸めて巣を作るため、農薬の使用説明では「イネツトムシ(稲苞虫)」とも呼ばれる大害虫で、秋に羽化する個体の全てがイネで育ったものです。本種の生活史を調べると不思議なことがありました◆その第一は、埼玉県内では越冬記録はなく、神奈川県沿岸地域では容易に越冬を確認できることです。



◆イチモンジセセリの成虫 (江村薫)

すなわち本種は埼玉での主要水稲害虫であるにも関わらず、温暖地域からの飛来種であり、秋になると一斉に西に向かって飛び立つのです。その移動距離などの実態は謎のままです◆第二の不思議は、5〜6月(一回目)と7月(二回目)の成虫はイネだけに産卵するのに対し、秋に出現する成虫はススキなどのいろいろなイネ科植物に産卵することです。季節的に幼虫の餌植物をなぜ変えているのでしょうか◆イチモンジセセリの成虫は花粉媒介に貢献しています。訪花している本種を見ると、移動分散している実態、花粉媒介虫としての益虫性、イネの大害虫など、不思議な生態的多面性を感じてしまいます。